

令和5年度 大阪府立福井高等学校 第2回学校運営協議会 議事録

1 会長あいさつ

- ・まずは教職員が健康第一で無理をせず過ごして欲しい。生徒を支えるためにも教職員は健やかである必要がある。

2 校長あいさつ

- 現時点で昨年度の生徒指導案件を超えている。いじめにつながるものが考えられる場合など、厳格に対応している。また国が行った生徒指導提要改定の趣旨に則り、支援的に支え導く指導を手厚くしている。その結果、件数としては増えているが学校はより落ち着いている。
- 下校時間に迷惑 YouTuber が来た件、ご心配をかけたが、本校生徒は関わることなく淡々と帰って行った。今後も教育庁・警察等や近隣の学校などとも連携して対応する。
- 志願者募集については、地元：茨木市(特に北部：福井高校を育てる会の中学校など)を大事に考え、地元のニーズにこたえていくことを第一に取り組んでいる。支援や配慮が必要な生徒については、障がいがある生徒、日本語指導が必要な生徒などと「ともに学ぶ」を実践しており、何らかの配慮を希望して本校を志願されることも歓迎する。たとえば現在はスカート希望する男子生徒はいないが、希望者が出てくればもちろん認める。違いを学校が認めるというのではなく、生徒同士が互いに違っているから良いとするような、多様で多文化な学校にと思う。

3 福井高校の現状と課題

資料番号	報告項目
1	進路指導部から(資料なし)
2	活動支援部から(部活動の加入状況)
3	多文化共生プロジェクトから
4	広報から
5	ちいさな適応指導について
6	類学舎との連携について

4 質疑応答

○勝部委員

- ・小さな適応指導については、非常に良い取り組みであるが教職員の共通理解が必要
- ・類塾への報酬について

○平野委員

- ・松原高校では内規で別室登校を認め、その課題について評価していた。

○増野委員

- ・地元の高校として頑張っていたら嬉しい。
- ・中学3校にも迷惑 YouTuber が来ていた。

○塩田委員

- ・定員数減に伴い、空き教室を地域に開放して欲しいと以前提案したが、当時の事務長からは難しいとの返答があった。空き教室を利用して、たくさんの世代の方との交流がもてる場としてはいかがか。

○谷本委員

- ・小さな適応指導については保護者目線でもとても嬉しい。別室で年の近い学習支援員との交流することはとても良いと思う。居場所がある、話を聞いてくれるという別室があることは学校に足が向くきっかけとなるのではないか。

- ・不登校の生徒が類塾との連携や別室での登校から、福井高校へ足が向き、最終的には全日制の福井高校へ通えるようになれば良い。小さな適応教室は良い取り組みだと思う。

5 その他

○事務部長

- ・学校に他人を入れなければならない。色々な視点でみることで、学校が良くなる。

○校長

- ・学習支援員・介助員の確保について苦労している。コロナ禍中のおり、国の予算で一定の時給があったときには、その枠にはそれなりの人数の大学生とかが集まったが、有償ボランティアでは集まらない。近隣の大学生・院生などが後輩に繋いでくれることもあり、魅力もある内容だと思うが、大学生に手弁当を強いている現状は心苦しい。

6 校長あいさつ

- ちいさな適応指導について、前向きなご意見をいただけたことありがたい。立地上、地元生徒の比率がとても高い本校。地元の方との交流もますます進めていきたい。

令和5年度 大阪府立福井高等学校 学校運営協議会委員（敬称略）

番号	名 前	職 名
1	勝部 幸	元福井高校校長
2	平野 智之	追手門学院大学教授
3	増野 浩典	「福井高校を育てる会」会長 茨木市立太田中学校長
4	塩田 寛	福井地区自治振興会
5	福田 正幸	茨木市健康福祉部 支援員
6	谷本 紀子	本校PTA会長

事務局（敬称略）

番号	名 前	校務分掌等
1	内田 正俊	校長
2	山村 宏昌	教頭
3	太田 真希子	首席・活動支援部長
4	曾根 康介	首席・生徒指導部長
5	川上 郁恵	教務部長
6	川端 直子	進路指導部長
7	野村 達記	地域連携主担

今後の予定 第3回 令和6年2月7日（水）10時～ [校長室]